

# 29amA-250

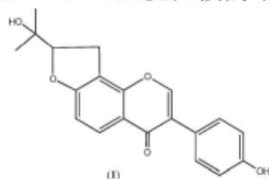
マメ科 *Erythrina speciosa* の成分研究

○田中 斉<sup>1</sup>, 平田 美由紀<sup>1</sup>, 飯田 圭<sup>1</sup>, 笹川 裕介<sup>1</sup>, 酒井 達子<sup>1</sup>, 疋田 清美<sup>1</sup>, 金田 典雄<sup>1</sup>, 佐藤 勝<sup>2</sup>, 山口 良三<sup>2</sup>, 邑田 仁<sup>3</sup>, 邑田 裕子<sup>4</sup>, 坂崎 信之<sup>5</sup>, 花城 良廣<sup>6</sup>(<sup>1</sup>名城大薬, <sup>2</sup>朝日大歯, <sup>3</sup>東大院・附属植物園, <sup>4</sup>摂南大薬, <sup>5</sup>日本植物園協会, <sup>6</sup>沖縄美ら島財団)

【目的】我々は現在まで数種類の *Erythrina* 属植物の成分検索を行い、多くのフェノール性化合物を単離し、その抗菌活性(MRSA)を評価した。その結果、イソフラボン誘導体(isolupalbigenin, erythbidin E, eryvarin W)及び<sup>1)</sup> 1,2-diphenylethanone (erybacin B)に顕著な抗 MRSA 活性を有することを見いだした。<sup>1)</sup>

今回我々は、*Erythrina* 属の植物成分研究のため、*Erythrina speciosa* の成分について検討したところ、一種の新規化合物 (1)を含む数種のフラボノイドを得ることができたので報告する。

【実験および結果】沖縄県国頭郡にて栽培された *Erythrina speciosa* の根部を採取し、アセトンで抽出した。その抽出エキスをクロロホルムで抽出し、クロロホルム可溶部をシリカゲルクロマトで繰り返し分離、精製した結果、一種の新規イソフラボン(1)と数種の既知フラボノイド (bidwillol A, cristacarpin, eryvarin D, eryvarin L, sophorapterocarpan A 等)を単離した。新規化合物の構造は、各種スペクトルデータおよび二次元 NMR スペクトルデータの解析により決定した。これらの抗菌活性については現在検討中である。



【文献】 *Let. Appl. Microbiol.*, **43**, 243-248 (2006); *Heterocycles*, **71**, 1779-1785 (2007); *Planta Med.*, **76**, 916-919 (2010); *Chemistry & Biodiversity*, **8**, 476-482 (2011).